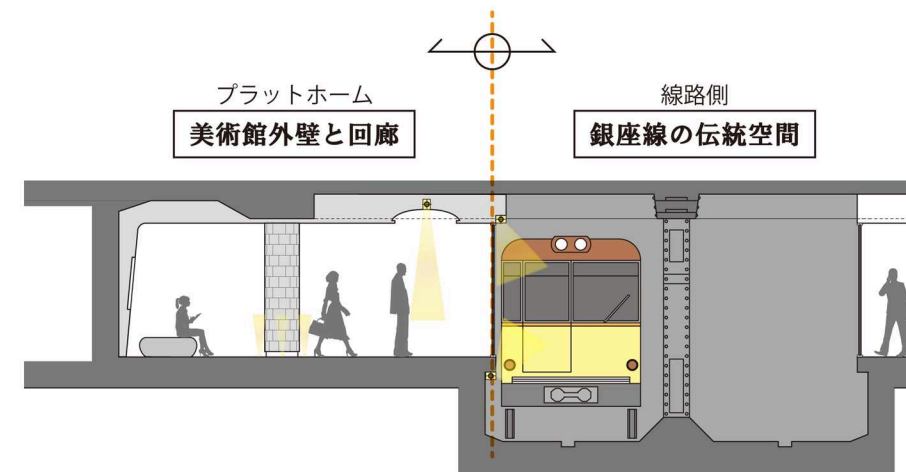




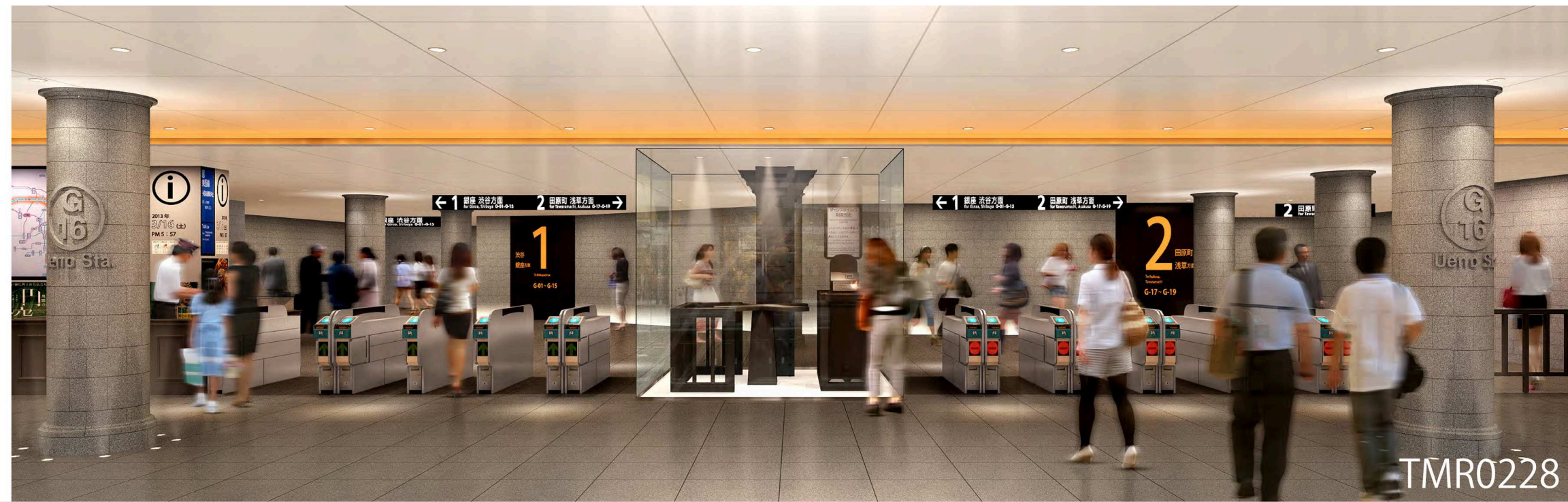
伝統と未来の象徴空間

天井まで立ち上げた安全柵をクリアガラスとし、プラットホーム側を美術館の外壁と回廊、線路側を開業当時から残る銀座線の歴史を物語る保存空間と見立てます。

保存空間は、開業当時の「リベット柱」「電車進入案内板」と、そして「復刻版の黄色い車体」そのものをミュージアムコンテンツとして捉え、銀座線の「伝統と未来」を象徴的に表現する空間とします。



上野という美術館のある街の「エントランス」としてのしつらえの改札口。改札中央では昭和2年の銀座線開通当時に使われた、回転式改札をアートとして捉えてモニュメント展示します。パーソナル情報端末を用いるモニュメントのサイネージは、日本で初めてできた地下鉄・銀座線がこれまで経てきた歴史を知る仕掛けとなるものです。



列車を待つ時間帯に限定して、天井まで立ち上げた安全柵に映像をプロジェクション投影し、壁面側のサイネージとの相乗効果を生みます。

神田駅



家ごとに異なる角度の屋根の連なりと、家並みをぬくもりのある木目のコンポジションとして町の要素を構成した稲荷町駅。
ホームの狭さを軽減させるため、安全柵は胸高のクリアガラスの引き戸としています。

改札出た先では地上の街のグラフィック転写をした壁面と「地域の伝言板」としてのサイネージを設置。
地上の気配を漂わせて、自然な流れで地上の街にある目的地へ誘う効果を狙っています。



神田駅周辺にあるオフィスビルを構成している窓などのフォルムを抽出し線路側の壁面を覆う設えとしました。
矩形のリピートの覆い越しに覗くタイルは、柱面のタイルと協調して神田にふさわしい空間を醸し出します。

地上出入り口では、サイネージを設ける事でこれまで地下まで降りないと得られなかった情報を地上で得る事ができる利便性の高い出入り口としています。
安全柵はホームの狭さに繋がらないように胸高のクリアガラスの引き戸としています。



稲荷町駅